

【復興交付金事業計画の個別事業の実績に関する評価様式】

事業番号：★D-23-3-20・21・22								
事業名：防災広場整備事業（公共ゾーン地区）								
事業費：総額 123,799 千円 国費 99,039 千円 (内訳：設計費 9,319 千円, 工事費 114,480 千円)								
事業期間：平成 28 年度～平成 30 年度								
事業目的：巨理町津波避難計画に定める避難路添いに災害時に防災拠点として機能する防災広場を整備する。防災集団移転促進事業にて進める内陸移転と併せ実施することで、当町の復興まちづくりに相乗効果を図る。荒浜地区及び吉田東部地区の沿岸地域から内陸部の避難所に向かう避難者 3,253 のうち 2/3 の 2,072 人が、県道・町道の交差点及び JR 常磐線の跨線橋の手前・踏切等で渋滞することが予測され、同計画で定めている避難可能時間 45 分以内に、指定避難所に到着しないことが想定されることから、同計画で定めている津波浸水区域外への一時避難場所として、防災広場を整備する。								
事業地区：巨理地区								
事業結果：防災広場整備 A=13,103 m ²								
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基盤整備工 (掘削工 V=9,000 m³、盛土工 V=12,700 m³) ・ 施設整備工 <ul style="list-style-type: none"> U 型側溝工 (250) L=128m、災害用トイレ設置工 N=1 式 照明灯 (LED) 設置工 N=8 基、ソーラー照明灯 (LED) 設置工 N=2 基 アスファルト舗装工 (再密 A=20 F t=5 cm) A=1,670 m² インターロッキング舗装工 A=515 m²、芝生舗装工 A=8,180 m² 防災四阿設置工 (2.3m×2.3m) N=1 基 便所設置工 (2.5m×7.7m) N=1 基 防火水槽設置工 (3.0m×5.4m) N=1 基 ・ 植栽工 (中木植栽 N=1 式、低木植栽 N=1 式、地被類植栽 N=1 式) 								
事業の実績に関する評価								
<p>① 事業結果の活用状況に関する調査・分析・評価</p> <p>○ 防災拠点施設である新庁舎及び備蓄倉庫に隣接しており、地区住民の防災意識の高揚に繋がった。</p> <p>⇒ 上記を踏まえ、本事業は事業目的に即した効果を発揮していると判断する。</p>								
<p>② コストに関する調査・分析・評価</p> <p>○ 整備用地は町有地によりコストを抑えることができた。また、設計等業務、工事ともに巨理町財務規則等に基づき、一般競争入札を実施して業者を決定したことから、事業費・コストは妥当であったと評価できるものである。</p> <p>⇒ 上記を踏まえ、本事業に要したコストは妥当と判断する。</p>								
<p>③ 事業手法に関する調査・分析・評価</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;"></th> <th style="width: 40%;">想定事業期間</th> <th style="width: 40%;">実際の事業期間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>調査・設計・工事</td> <td>平成 28 年 4 月～平成 30 年 12 月</td> <td>平成 28 年 8 月～平成 31 年 3 月</td> </tr> </tbody> </table> <p>⇒ 防災広場整備事業実施地内に存した仮設住宅の解体が移転の都合により遅れたため、やむを得ず想定の実業期間内に事業完了しなかったが、近隣の仮置き土を盛土に使用するという事業手法により効率的に事業を進めたため、事業手法として妥当と判断する。</p>				想定事業期間	実際の事業期間	調査・設計・工事	平成 28 年 4 月～平成 30 年 12 月	平成 28 年 8 月～平成 31 年 3 月
	想定事業期間	実際の事業期間						
調査・設計・工事	平成 28 年 4 月～平成 30 年 12 月	平成 28 年 8 月～平成 31 年 3 月						
事業担当部局 巨理町財政課管財班 電話番号：0223-34-0502								